

分散投資型年金

Global WIN

グローバル・ウィン

新変額個人年金保険(無配当) 特別勘定グループ(GW)

月次運用実績レポート

2012年4月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株インデックス型(GW)	インデックスファンド225VA (適格機関投資家向け)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株アクティブ型(GW)	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3 (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社
海外株式型(GW)	ステート・ストリート外国株式 インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用)	ステート・ストリート・グローバル ・アドバイザーズ株式会社
新興成長国株式型(GW)	JPM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)	JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社
海外債券型(GW)	ピムコ・海外債券ファンド (適格機関投資家専用)	ピムコジャパン リミテッド
日本債券型(GW)	MHAM物価連動国債ファンドVA (適格機関投資家専用)	みずほ投信投資顧問株式会社
海外リート型(GW)	ノムラ海外REIT インデックス・ ファンドVA(適格機関投資家専用)	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型(GW)	フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

<引受保険会社>

<募集代理店>
株式会社 鳥取銀行

TOTTORI BANK  鳥取銀行

アクサ生命保険株式会社 

redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL. 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

特別勘定名称

日本株インデックス型(GW)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株インデックス型(GW)	▲5.56%	8.51%	6.04%	▲2.88%	▲41.34%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	1.4%
投資信託	98.6%
合計	100.0%

【参考】日本株インデックス型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

インデックスファンド225VA(適格機関投資家向け)

(運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
インデックス225VA	9.12%	6.92%	▲1.69%	4.02%	1.19%
日経平均株価(225種・東証)	8.16%	5.92%	▲3.34%	2.55%	0.15%
差異	0.95%	1.00%	1.65%	1.47%	1.04%

<純資産総額>

純資産総額 141.46億円

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満(3ヵ月間、6ヵ月間)は、年率換算していません。
 ※ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入(再投資)し、算出しています。
 ※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。

<株式組入上位10業種>

業種名	ファンドのウェイト
1 電気機器	21.21%
2 小売業	10.33%
3 情報・通信業	8.62%
4 輸送用機器	6.92%
5 医薬品	6.38%
6 化学	6.28%
7 機械	4.89%
8 食料品	4.39%
9 精密機器	3.25%
10 卸売業	2.99%

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<株式組入上位10銘柄>

銘柄名	ファンドのウェイト
1 ファーストリテイリング	7.45%
2 ファナック	5.65%
3 京セラ	3.27%
4 ソフトバンク	2.99%
5 本田技研工業	2.41%
6 キヤノン	2.29%
7 KDDI	2.18%
8 信越化学工業	1.93%
9 東京エレクトロン	1.85%
10 TDK	1.75%

(組入銘柄数 225銘柄)

※ファンドのウェイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

<資産構成>

株式	98.75%
一部上場	98.75%
二部上場	0.00%
地方単独	0.00%
ジャスダック	0.00%
その他	0.00%
株式先物	1.25%
株式実質	100.00%
現金その他	1.25%

※当ファンドの実質の組入比率です。

<運用コメント>

4月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比マイナス5.58%と下落しました。日銀の企業短期経済観測調査(短観)で大企業製造業の業況判断が市場予想に反して横ばいだったことや、スペイン国債の入札不調などから欧州債務問題再燃への懸念が高まったことを受けて、日経平均株価は下落して始まりました。以降、反発する局面もありましたが、アメリカドル、ユーロに対する円高の進行、スペイン、イタリアの債務削減に対する不透明感、米国で雇用統計や中古住宅販売件数など市場予想に反する内容の経済統計の相次ぐ発表、中国の景気減速を示唆する経済指標の発表、フランス、オランダの政局不安など悪材料が重なり、軟調な展開となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本株アクティブ型(GW)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(「100」)として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株 アクティブ型 (GW)	▲4.93%	7.24%	4.22%	▲7.64%	▲44.54%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.2%
投資信託	97.8%
合計	100.0%

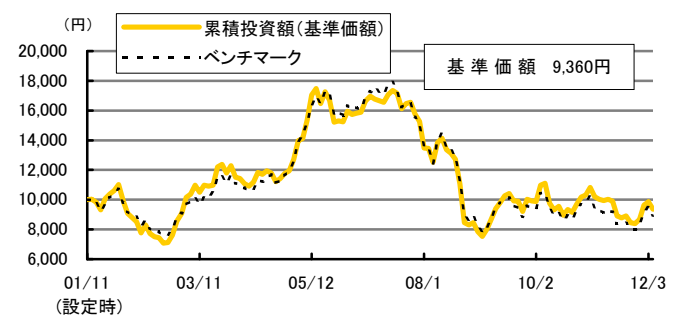
【参考】日本株アクティブ型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行ないます。

設定来の運用実績 (2012年4月27日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。※基準価額は運用管理費用控除後のものです。

<運用コメント>

4月の東京株式市場は、上旬に調整した後、月末まで狭いレンジでもみ合う展開が続きました。月初めに公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事要旨を受けて追加の金融緩和観測が後退したことなどから日本株は急落、スペイン国債入札の不調をきっかけに欧州債務問題が改めて意識されたほか、3月の米非農産部門雇用者数が市場の予想ほど伸びなかったことも嫌気され、円高修正の動きが一服する中、下落基調を辿りました。中旬に入ると、日銀が月末の金融政策決定会合で追加の金融緩和に踏み切るとの観測や、日本企業の新年度業績に対する期待などが相場を下支えしたものの、中国景気の減速懸念やスペイン国債入札に対する警戒感などが重しとなり、もみ合いとなりました。相場の膠着感が強まる中、月末最終日には日銀が追加金融緩和策を発表、場中に株価が急騰する場面もありましたが一時的なものにとどまりました。月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が▲5.86%、日経平均株価は▲5.58%となりました。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

商品概要

形態	追加型投信/国内/株式
投資対象	わが国の株式等
設定日	2001年11月29日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	▲4.95%	7.82%	5.03%	▲6.65%	▲6.40%
ベンチマーク	▲5.86%	7.66%	6.54%	▲3.36%	▲10.42%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

※ベンチマーク: TOPIX (配当金込)

過去5期分の収益分配金 (1万口当たり/税込)

第6期(2007.11.30)	-----	0円
第7期(2008.12.01)	-----	0円
第8期(2009.11.30)	-----	0円
第9期(2010.11.30)	-----	0円
第10期(2011.11.30)	-----	0円

純資産総額 652.6 億円 (2012年4月27日現在)

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2012年3月30日現在)

順位	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.6%
2	本田技研工業	輸送用機器	3.5%
3	ミスグループ本社	卸売業	3.3%
4	オリックス	その他金融業	2.9%
5	任天堂	その他製品	2.2%
6	マキタ	機械	2.1%
7	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.1%
8	日立金属	鉄鋼	1.9%
9	シマノ	輸送用機器	1.9%
10	大和工業	鉄鋼	1.9%

(組入銘柄数: 200)

上位10銘柄合計 25.5%
(対純資産総額比率)

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」は、組入上位10銘柄の対象から除いています。

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース) (2012年3月30日現在)

<資産別組入状況>

株式	95.7%
新株予約権証券(ワラント)	-
投資信託・投資証券	0.2%
現金・その他※	4.1%

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」(3.1%)を含みます。

未払金等の発生により、「現金・その他」の数値が「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」の数値を下回ることがあります。

<市場別組入状況>

東証1部	88.0%
東証2部	0.0%
ジャスダック	0.9%
その他市場	7.0%

<組入上位5業種>

電気機器	15.1%
輸送用機器	11.6%
卸売業	7.5%
銀行業	6.7%
機械	6.2%

(対純資産総額比率)

*各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外株式型(GW)

運用方針

日本を除く主要先進国企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、MSCI KOKUSAIインデックスに連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外株式型 (GW)	▲1.87%	11.08%	8.41%	▲5.94%	▲30.57%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.9%
投資信託	97.1%
合計	100.0%

【参考】 海外株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1 (適格機関投資家専用)

(運用会社:ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ステート・ストリート 外国株式インデックス・ ファンドVA1	▲1.84%	11.70%	9.29%	▲5.68%	35.14%
MSCIコクサイ インデックス (円換算)	▲1.75%	12.02%	9.91%	▲4.75%	49.14%
差異	▲0.09%	▲0.33%	▲0.62%	▲0.93%	▲14.00%

<総資産総額>

純資産総額 6,478百万円

<組入銘柄数>

銘柄数 (マザーファンド) 1,296

<外国株式組入上位10銘柄>

順位	銘柄	国	業種	比率
1	APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.5%
2	EXXON MOBIL CORP	アメリカ	エネルギー	1.8%
3	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.1%
4	IBM CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.1%
5	CHEVRON CORPORATION	アメリカ	エネルギー	0.9%
6	GENERAL ELECTRIC CO	アメリカ	資本財	0.9%
7	NESTLE SA-REG	スイス	食品・飲料・タバコ	0.9%
8	AT & T INC	アメリカ	電気通信サービス	0.8%
9	PROCTER & GAMBLE CO	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	0.8%
10	PFIZER	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	0.8%

※マザーファンド・ベース
※比率は対純資産で計算しています。

<信託財産構成比>

項目	国名	比率
外国株式	[全体]	98.5%
	<北米>	63.2%
	アメリカ	57.8%
	カナダ	5.4%
	<アジア・太平洋>	6.2%
	オーストラリア	4.0%
	香港	1.3%
	シンガポール	0.8%
	ニュージーランド	0.1%
	<ヨーロッパ>	28.8%
	イギリス	10.4%
	フランス	4.0%
	ドイツ	3.8%
	スイス	3.8%
	オランダ	1.1%
	イタリア	1.0%
	スペイン	1.2%
スウェーデン	1.4%	
フィンランド	0.4%	
ベルギー	0.5%	
アイルランド	0.1%	
デンマーク	0.5%	
ノルウェー	0.4%	
ギリシャ	0.0%	
ポルトガル	0.1%	
オーストリア	0.1%	
<アフリカ・中東>	0.3%	
イスラエル	0.3%	
その他(現金及び株価指数先物)	1.5%	

※マザーファンド・ベース
※比率は対純資産で計算しています。

<運用コメント>

4月の外国株式市場は、下げ先行の展開となり月間では多くの市場が下落しました。米S&P500指数は5か月振り、独DAX指数は4か月振りに月間の騰落率がマイナスとなった一方、3月に下落した香港ハンセン指数は反発しました。米国株式市場は月初こそ米ISM製造業景気指数がコンセンサス予想よりも良かったことから上昇したものの、その後はイースター休日を挟んで10日まで5営業日連続して下落しました。この背景には、米国の追加的金融緩和期待が後退したこと、スペインの国債入札が不調で欧州債務危機への懸念が再燃したこと、3月の雇用統計で非農業部門雇用者数の伸びがコンセンサス予想を下回ったことなどが挙げられます。10日に月間の安値を付けた後は金融緩和期待や世界経済回復期待から反発する場面もあったものの、欧州債務危機への懸念がくすぶっていたことや軟調なマクロ指標などから株価は一進一退の動きになりました。しかし、第4週は米アップル社の四半期利益がほぼ倍増するなど公表中の第1四半期の企業業績が堅調だったことや住宅関連の統計に明るさが見えたことなどから上昇し、それまでの下げ幅を縮小しました。ダウ平均は13,213.63(前月比+0.01%)、ナスダック総合指数は3,046.36(前月比-1.46%)、S&P500指数は1,397.91(前月比-0.75%)で終了しました。

欧州株式市場では、英国市場は概ね米国市場と同様の動きになりましたが、欧州債務危機懸念の影響をより受けやすいユーロ圏の株式市場は軟調な展開となりました。これらの市場は10日以降もユーロ圏の国のCDSスプレッドの拡大、景気減速を示唆するマクロ指標の公表などに敏感に反応して下げ止まらず、財政緊縮策を巡ってオランダのルッテ首相が内閣総辞職をした23日に月間の安値を付けました。その後は、米国市場の回復と歩調を合わせて第4週には下げ幅を縮小したものの、30日にスペインのリセッション入りを示唆するGDP統計が公表され、反落して終了しました。英FT指数は5,737.78(前月比-0.53%)、仏CAC指数は3,212.80(前月比-6.16%)、独DAX指数は6,761.19(前月比-2.67%)で終了しました。

アジア株式市場は、欧米市場とは異なり相対的に堅調に推移しました。月の前半は欧米市場に連動して小幅安となったものの、香港市場は中国の金融緩和期待、豪州市場は同国の政策金利引き下げ観測などで月末にかけて堅調に推移しました。豪ASX200指数は4,396.58(前月比+1.41%)、香港ハンセン指数は21,094.21(前月比+2.62%)で終了しました。

外国為替市場は、米国経済指標が軟調であったことや世界的に株価が下落したことを背景に円が米ドルに対して買われました。円は対米ドルで月間1.22%上昇の81.19円となりました。

MSCIコクサイ指数パフォーマンスは前月比-1.75%となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

新興成長国株式型(GW)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
新興成長国株式型(GW)	▲1.94%	7.51%	7.45%	▲11.72%	15.18%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.9%
投資信託	97.1%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

【参考】 新興成長国株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

JPM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付)

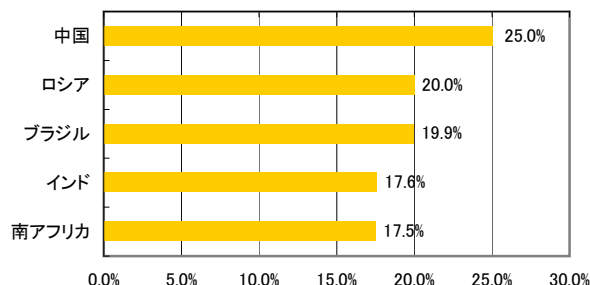
(運用会社: JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3か月	6か月	1年	設定来
JPM・BRICS5・ファンド	▲1.9%	8.0%	8.1%	▲11.6%	44.0%

※騰落率については、基準価額に税引前分配金を再投資して計算しております。
 ※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。
 ※ファンド設定日は2006年5月26日です。

<国別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入価証券を100%として計算しております。

<株式組入上位10銘柄>

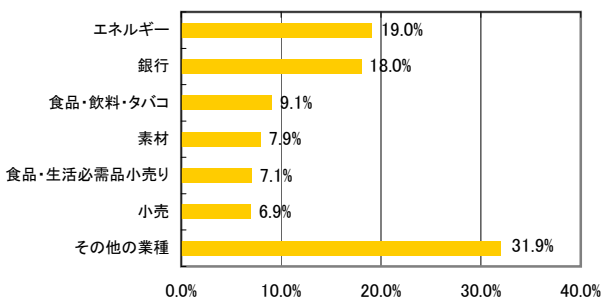
(銘柄数 55銘柄)

順位	銘柄	国	業種	比率
1	ルクオイル(ADR)	ロシア	エネルギー	4.27%
2	HDFC	インド	銀行	3.74%
3	タイガーブランズ	南アフリカ	食品・飲料・タバコ	2.98%
4	イタウ・ウニバンコ・ホールディング(ADR)	ブラジル	銀行	2.92%
5	ズベルバンク	ロシア	銀行	2.80%
6	ショップライト・ホールディングス	南アフリカ	食品・生活必需品小売り	2.77%
7	コンパニア・デ・ベビダス・ダス・アメリカス(ADR)	ブラジル	食品・飲料・タバコ	2.67%
8	タネフチ(ADR)	ロシア	エネルギー	2.59%
9	利豊	中国	小売	2.43%
10	中国建設銀行	中国	銀行	2.43%

(2012年3月30日現在)

※マザーファンド・ベース ※比率は対純資産で計算しています。

<業種別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入価証券を100%として計算しております。

<運用コメント>

市場概況
 当月の新興国株式市場は下落しました。欧州債務問題が依然として燃えていることや米国の3月の雇用統計が弱い内容となったことなどを背景に、新興国市場は下落基調となりました。

運用状況
 ・当ファンドの月末基準価額は12,495円、前月比-1.9%となりました。
 ・当月は為替要因がマイナスとなったことが、主な基準価額の下落要因となりました。
 ・組入価証券に対する国別の投資比率は、中国、ロシアが20%を上回る比率となりました。一方でブラジル、インド、南アフリカは20%を下回る比率となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外債券型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外債券型 (GW)	▲0.73%	6.64%	8.36%	3.47%	▲3.09%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.7%
投資信託	97.3%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

【参考】 海外債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ピムコ・海外債券ファンド(適格機関投資家専用)

(運用会社:ピムコジャパン リミテッド)

<基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ピムコ 海外債券ファンド	▲0.65%	7.15%	9.21%	4.81%	35.19%
ベンチマーク	▲1.14%	6.26%	6.39%	1.09%	22.58%
差異	0.49%	0.89%	2.82%	3.72%	12.61%

※ベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス(除く日本、為替ヘッジなし)90%、1ヶ月日本円Libor10%を合成したものです。

<ファンドの一般特性>

平均クーポン	3.38%
平均直接利回り	3.13%
平均最終利回り	3.01%
平均デュレーション	4.50年
平均償還期間	6.52年
平均格付け	AA
債券組入比率	99.08%

<国別構成比>

国名	組入比率
アメリカ	33.32%
ユーロ圏	48.51%
イギリス	8.62%
カナダ	-0.40%
メキシコ	4.61%
オーストラリア	0.80%
日本	0.13%
その他	4.41%
合計	100.00%

<格付構成比>

格付	組入比率
AAA	71.60%
AA	9.00%
A	16.40%
BBB	2.70%
BB以下	0.00%
A1/P1	0.30%
A2/P2	0.00%
合計	100.00%

<種類別配分>

セクター名	組入比率
国債、エージェンシー債	46.53%
モーゲージ債、アセットバック債	19.54%
社債	33.01%
キャッシュ等*	0.92%
合計	100.00%

※「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

<運用コメント>

<市場コメント>

米国債券相場は、月初に公表された3月FOMC(連邦公開市場委員会)の議事録や米雇用統計において非農業部門雇用者数の伸びが市場予想を大きく下回ったこと、住宅関連の経済指標が弱めの内容だったことを受け、月を通じて堅調な展開となりました。(2年債利回りは前月比0.07%低下、10年債利回りは前月比0.30%低下しました。)

ユーロ圏債券相場は、月前半、スペインにおける財政再建に対する懸念が高まったことを受けて、投資家がリスク回避姿勢を強める中、相対的に安全資産とみられたドイツ国債は堅調な推移となりました。その後、過去最低水準の利回りが嫌気されたことでドイツ10年国債入札が振るわない結果となったことから、ドイツ国債が下落する局面も見られました。しかし、ユーロ圏の景気減速を示す経済指標が発表されたことなどから、月末にかけてドイツ国債は再び堅調な推移となり、月を通じても上昇する結果となりました。(2年債利回りは前月比0.13%低下、10年債利回りは前月比0.13%低下しました。)英国債券相場は、月初、欧州債務問題の先行き不透明感がくすぶる中、他の主要先進国の債券相場が堅調な推移となった流れを受けて、上昇基調となりました。(2年債利回りは前月比0.03%上昇、10年債利回りは前月比0.09%低下しました。)

日本債券相場は、海外市場で債券高の流れとなった中で、概ね堅調に推移しました。また月末には日銀が資産買い入れ基金の5兆円増額や、買い入れ対象国債の年限を3年に延長する追加金融緩和を決定したことも、日本債券市場へのサポート要因となりました(2年債利回りは前月比ほぼ横ばいで推移、10年債利回りは前月比0.09%低下しました。)

<パフォーマンス>

先月のパフォーマンスはマイナス0.65%となり、ベンチマークを0.49%上回りました。国別選択で欧州周辺国の保有を少なめとしたことはプラスとなった一方、米国で金利リスクを少なめとした戦略はマイナスとなりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

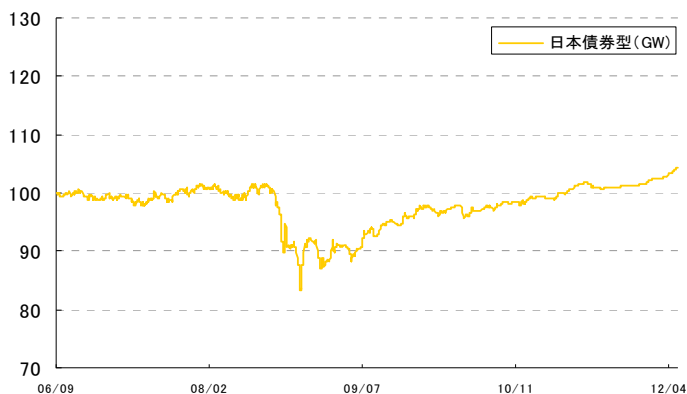
特別勘定名称

日本債券型(GW)

運用方針

国内の物価連動債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
日本債券型 (GW)	0.93%	1.97%	3.10%	4.17%	4.23%

特別勘定資産内訳

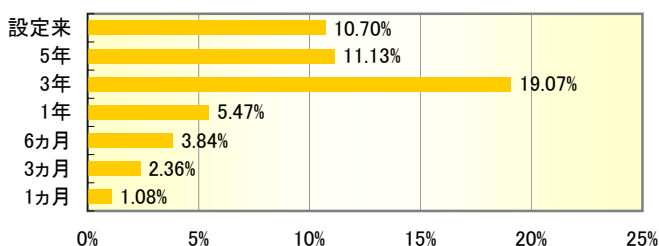
	構成比(%)
現預金・その他	3.5%
投資信託	96.5%
合計	100.0%

【参考】日本債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

MHAM物価連動国債ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:みずほ投信投資顧問株式会社)

<期間別騰落率> 累積収益率



※累積収益は、ファンドの決算時に収益分配があった場合にその分配金(税引前)を再投資したものと算出。

※累積収益率は実際の投資家利回りとは異なります。

<組入上位5銘柄の組入比率>

順位	銘柄名	利率	償還日	比率
1	第16回利付国債(物価連動・10年)	1.400%	2018/06/10	44.1%
2	第12回利付国債(物価連動・10年)	1.200%	2017/06/10	26.8%
3	第4回利付国債(物価連動・10年)	0.500%	2015/06/10	9.6%
4	第1回利付国債(物価連動・10年)	1.200%	2014/03/10	6.3%
5	第3回利付国債(物価連動・10年)	0.500%	2014/12/10	4.7%

<ポートフォリオの状況>

国内債現物組入銘柄数	7銘柄
公社債の平均残存期間	4.94年

※組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

国内債現物	96.6%
国内債先物	0.0%
その他資産	3.4%

※その他資産は、100%から国内債現物・国内債先物の組入比率の合計を差し引いたものです。

<公社債の残存期間別組入比率>

残存年数	比率
1年未満	0.0%
1年～3年未満	11.9%
3年～7年未満	84.7%
7年～10年未満	0.0%
10年以上	0.0%

※組入上位5銘柄の組入比率、公社債の残存期間別組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

<運用コメント>

■先月の投資環境

第16回物価連動国債利回りは、4月末現在でマイナス0.1%台前半と3月末比低下しました。

第16回物価連動国債とほぼ同じ残存期間の10年長期国債(第293回債)との複利利回り格差(物価連動国債が償還までにどれだけの物価上昇(年率)を織込んでいるかを示す値=ブレイクイーブンインフレ率)は、月初プラス0.3%台前半で始まり、月を通じて緩やかに拡大し、月末はプラス0.5%台前半となりました。

また、全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数。以下コアCPIという。)から算出する物価連動国債の4月末の連動係数は、3月末比横ばいとなりました。

■先月の運用概況

物価連動国債の実質組入比率は高位を維持しました。また、実質組入れている物価連動国債の平均残存期間は4.94年としております。

かかる運用の結果、物価連動国債の連動係数が横ばいとなったものの、ブレイクイーブンインフレ率が拡大したことや、物価連動国債とほぼ同じ残存期間の10年長期債利回りが低下したことがプラスに寄与したことから、当ファンドの4月末の基準価額は10,914円と前月末比117円上昇しました。

■今後の運用方針

物価連動国債が参照する物価指数であるコアCPI3月分の前年比はプラス0.2%となり市場の事前予想を上回りました。今後もゼロ%近傍で推移するものと見込みます。

政府は現在、消費税率引き上げに向けた動きをとっているものの、反対意見も根強く残っていることから、実際に成立するのかどうかについて今後の動向が注目されます。

また、物価連動国債市場の需給面では、財務省の物価連動国債買入消却継続の有無や、2012年度の物価連動国債発行再開に向けた動きにも注視して参ります。引き続きブレイクイーブンインフレ率の動向を注視すると共に、需給動向及びコアCPIの変化に備えたポートフォリオを維持していく方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外リート型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信(REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(「100」として指数化したもの)です。

ユニット・プライスの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
海外リート型 (GW)	1.51%	12.62%	13.46%	1.74%	▲36.74%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.0%
投資信託	97.0%
合計	100.0%

【参考】 海外リート型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ノムラ海外REIT インデックス・ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
ノムラ海外REITインデックス ファンドVA	1.6%	13.3%	14.5%	2.6%	▲27.9%
ベンチマーク	1.9%	13.6%	14.8%	3.7%	▲24.7%

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」はスタンダード&プアーズファイナンシャルサービシーズエルエルシーの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関しかなる意思表示等を行なうものではありません。

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)はS&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、ドルベース)を委託会社において円換算したものです。

<資産配分比率>

資産種別	純資産比
REIT(リート)	97.8%
その他の資産	2.2%
合計(※)	100.0%

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示しておりません。
※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

<実質通貨別配分>

通貨	純資産比
日本・円	1.7%
外貨計	98.3%
アメリカ・ドル	65.5%
ユーロ	6.9%
イギリス・ポンド	5.6%
その他の外貨	20.3%

・実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

<国・地域別配分>

国・地域	純資産比
アメリカ	66.6%
オーストラリア	11.6%
イギリス	5.7%
フランス	4.7%
シンガポール	3.5%
その他の国・地域	7.9%
合計	100.0%

<REIT 組入上位10銘柄>

順位	銘柄	国・地域	純資産比
1	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	7.2%
2	WESTFIELD GROUP	オーストラリア	3.1%
3	PUBLIC STORAGE	アメリカ	3.1%
4	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ	2.9%
5	UNIBAIL RODAMCO SE	フランス	2.7%
6	VENTAS INC	アメリカ	2.6%
7	HCP INC	アメリカ	2.6%
8	PROLOGIS INC	アメリカ	2.5%
9	BOSTON PROPERTIES	アメリカ	2.5%
10	VORNADO REALTY TRUST	アメリカ	2.4%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

※国・地域名は原則発行国・地域で区分しております。

<市場コメント>

●米国の小売売上高が市場予想を上回ったことや豪州の雇用改善などを背景に、外国リート市場は米国・豪州を中心に上昇しました。内外長期金利差の縮小や、欧州債務懸念の再燃に伴い投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどを背景に、主要通貨は対円で下落(円高)しました。

(野村アセットマネジメント作成)

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。

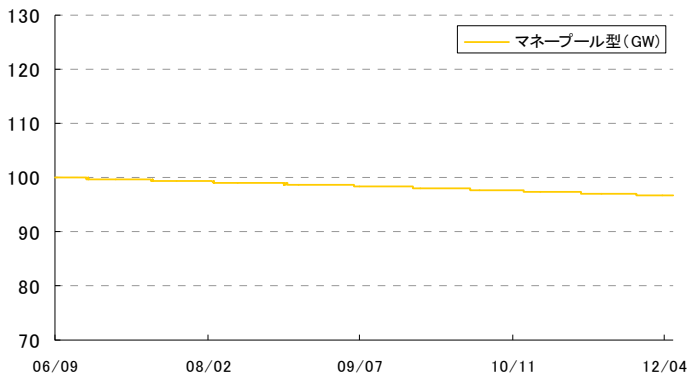
特別勘定名称

マネープール型(GW)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
マネープール型 (GW)	▲0.05%	▲0.17%	▲0.33%	▲0.68%	▲3.39%

特別勘定資産内訳

	構成比 (%)
現預金・その他	10.2%
投資信託	89.8%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(「100」として指数化した)を指します。

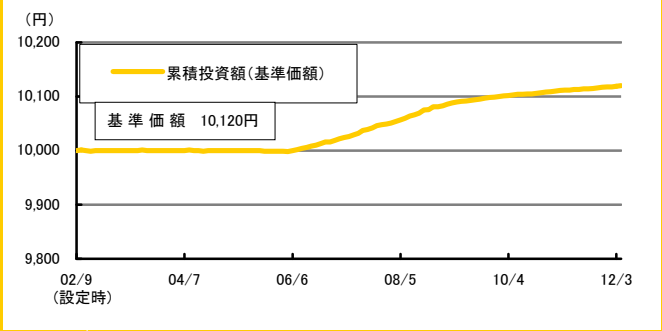
【参考】マネープール型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社: フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

設定来の運用実績 (2012年4月27日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。
※基準価額は運用管理費用控除後のものです。

純資産総額 144.9 億円 (2012年4月27日現在)

商品概要

形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン (2012年4月27日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	0.01%	0.02%	0.05%	0.08%	1.20%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(1万口当たり/税込)

第6期(2007.11.30)	0円
第7期(2008.12.01)	0円
第8期(2009.11.30)	0円
第9期(2010.11.30)	0円
第10期(2011.11.30)	0円

(2012年3月30日現在)

<資産別組入状況>

債券	96.2%
CP	-
CD	-
現金・その他	3.8%

<組入資産格付内訳>

長期債券格付	AAA/Aaa	-
	AA/Aa	96.2%
	A	-
短期債券格付	A-1/P-1	-
	A-2/P-2	-
現金・その他		3.8%

平均残存日数	52.26日
平均残存年数	0.14年

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(「プラス/マイナス」の符号は省略しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2012年3月30日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	第255回 国庫短期証券 2012/05/07	債券	AA/Aa	14.2%
2	第260回 国庫短期証券 2012/05/21	債券	AA/Aa	14.2%
3	第261回 国庫短期証券 2012/05/28	債券	AA/Aa	14.2%
4	第257回 国庫短期証券 2012/05/14	債券	AA/Aa	10.7%
5	第264回 国庫短期証券 2012/06/11	債券	AA/Aa	10.7%
6	第248回 国庫短期証券 2012/04/09	債券	AA/Aa	7.1%
7	第250回 国庫短期証券 2012/04/16	債券	AA/Aa	7.1%
8	第262回 国庫短期証券 2012/06/04	債券	AA/Aa	7.1%
9	第269回 国庫短期証券 2012/07/02	債券	AA/Aa	7.1%
10	第268回 国庫短期証券 2012/06/25	債券	AA/Aa	3.6%

(組入銘柄数: 10) 上位10銘柄合計 96.2% (対純資産総額比率)

*各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して (年率0.75%+運用実績に応じた費用(※))/365日 を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、運用実績が 年率1.5%を超過 した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、 移転一回につき1,000円 を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本株インデックス型(GW) 年率0.42%程度
	日本株アクティブ型(GW) 年率0.924%程度
	海外株式型(GW) 年率0.399%程度
	新興成長国株式型(GW) 年率1.155%程度
	海外債券型(GW) 年率0.9135%程度
	日本債券型(GW) 年率0.252%~0.3675%程度
	海外リート型(GW) 年率0.42%程度
マネープール型(GW) 年率0.008925%~0.525%程度	

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご留意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「グローバル・ウィン」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「グローバル・ウィン」には「特別勘定グループ(GW)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(GW)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(GW)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほか、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「グローバル・ウィン」は現在販売しておりません。